

メンバー、ボランティア、学生
みんな仲間!

平成 29 年 8 月号

けやきと仲間 めーる



こころの病と闘っている人々と千葉大学生や周囲地域との協働の会 地域活動支援センター「けやきと仲間」
平成 29 年 8 月 1 日(第 148 号)



7月7日(金)

暑かった!

旨かった!

楽しかった!

実習生と一緒にの

バーベキュー大会!!



～千家連主催 日帰り研修(6月17日(火))～

精神医学資料館(都立松沢病院内)

6月17日(火) 当会からは家族会4人、ボランティア5人、スタッフ3人計12名の参加でした。

日本の精神医学の草分けと言われた初代松沢病院長、呉秀三精神科医は、「日本の精神病患者には、2つのかせがある。1つは病気をもったこと、もう1つはこの国に生まれたことである。」と言い、明治34年に手かせ足かせを禁止するなど、劣悪な環境から、人として自信と誇りを取り戻すために、作業療法とレクリエーション療法を取り入れるなど看護を一新したとのことでした。



かつての夜間救急診療室と病棟保護隔離室がそのまま資料館として活用され、その建物の構造も資料の1つとなっていました。



25分間のビデオは、改革し始めた頃の貴重な資料であり、生き生きと農作業している姿にほっとしたりしましたが、座敷牢などに隔離されたことでの後遺症の姿には胸が痛みました。そして、看護師が夜間に破れた衣類の繕いをしている姿や、作業療法士、医師などの献身的な温かみのある姿勢に頭が下がりました。(スタッフ)



☆資料館では、精神科医療に携わる方々の並々ならぬ努力や、研究の進歩や、患者さんへの対応の変化など、様々なことがわかりました。このまま前進して患者さんや家族にとって、より過ごしやすい世の中になって欲しいという気持ちを持ちました。私ができることは、ほんの少しのことですが、少しでも実践できたらいいなと思った次第です。(家族会のSさん)

☆大変有意義な研修でした。世田谷区にあの様な広大な敷地の中に、社会にある物を取り入れ、精神障害の人としての人權を世に訴えたとと思われる呉医師の懐の深さ、気高さ、どれを見ても感動でした。個室は、刑務所に似ていました。座敷牢は、ショックでしたが、現在も座敷の奥に閉じ込められている実話を聞きました。たまたま、逃げ出した人が民家の庭で寝そべっていたところを、「あなた何しているの?」と訊ねても様子がおかしいので、消防に連絡したとの事、中年女性でした。民家の方から直接聞いたお話です。葦原將軍のお話は、ユニークでした。今でしたら施設があるのですが、自由にさせてもらってたんですね。肖像画を描いた末裔が個人的には興味を持ちました。呉さんの本を読もうと思いました。(ボランティアのNさん)

～表紙になりました。(下村大輔さん)～



「下村さんの記事を見て、けやきのことを知りたくて」と言う電話が飛び込んできました。早速ネットで確認。ずっと内緒にしているつもりだったと言う下村さんは、「見つかってしまいましたかあ。表情も硬くて、恥ずかしいです。元気+からお礼のメールがきたのですが、リベンジさせて下さいと返事しました」と笑っていました。

土曜市に参加して

土曜市は、今回はじめて参加させていただきましたが、老若男女色々な方がおり、様々な参加の仕方をしているのが印象的でした。けやきの方たちもメンバーさん同士あるいは地域の方たちと交流しながら参加されているのを見て、それぞれの参加の仕方があり、ゆっくりと時間が流れているように感じました。販売においては、私が全部をやろうとしぎちゃった点もあり、反省しております。それぞれの方が様々なものを抱えているとは思いますが、このような交流の場は、メンバーさんにとってもその家族にとっても必要なことだと思います。(実奈さん・Nさんの姉)

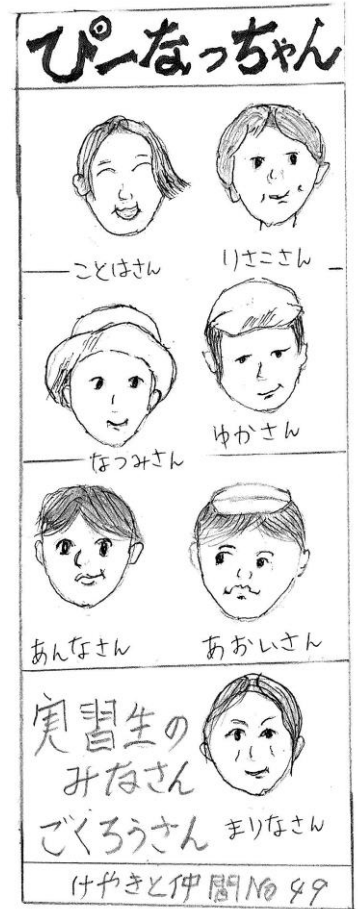
～うまださんよりメールが届きました～

先日はけやきと仲間メールをありがとうございました。音楽療法、こちらでも社会福祉協議会の事業としてご高齢の方に集まっていたいてお茶を楽しんだり、朗読、手品、小物作り、絵画セラピー等の後に軽い運動や歌声喫茶と称してお茶を飲みながら歌います。あの中の記事で背もたれから背をおこすと書いてありました。いいことですね。

今度の時は皆さんにそう提案してみます。少しのことで効果が期待できますものね。

似顔絵を描かせてもらい深呼吸
暑いけど肉食う方が優先だ
誘われて木陰で涼み嬉しいな
パン売れる実習生の呼び込みで
オレだって売り子次第で買いまくる
夏が来た母校合戦けやきでも
かき氷ノドをうるおし校歌聞く
ゴキブリが眠削食って眠ってる

川柳



まりなさんは、薬学部6年生で卒業研究の協力のお願いに来られました。